

No.505

2020年4月

暖かかった2019年度の富山の冬

この冬は例年に比べてとても暖かく、雪もすごく少なかったですね。雪かきをしなくてすむと喜んだり、スキーに行くことができないと悲しんだり、いつもとは違った冬にだれもが「異常だった」と感じたことでしょう。この冬の気象データと過去のデータを見比べてみましょう。

図1上のグラフは、富山市における過去10年間の一冬（12～3月）の降雪量と平均気温の変化です。この冬は過去10年で平均気温がもっとも高く、雪がもっとも少なかったことがわかります。観測記録が残る1953年までさかのぼっても、この冬ほど平均気温が高く、雪が少ない年はありませんでした。気象データからもこの冬は今までにない特別な冬だったといえます。

ここで、「気温が高かったから、雪のかわりに雨がたくさん降ったのでは？」と考えた方がいるかもしれませんが、そこで、同じ期間における降水量（雨と雪を合わせた量）も見ましょう（図1下のグラフ）。すると、降水量も同様に少なかったことがわかります。そのため、この冬、富山市では雨や雪を降らせる雲そのものが少なかったと考えられます。

さて、標高2,450mの高山の立山室堂平の雪はどうでしょう。室堂平の積雪情報を見ると、670 cm（3月9日測定、立山黒部アルペンルートホームページより）、昨年より100 cm以上も多く雪は積もっているようです。平地と山の気象はずいぶんちがうようです。（加藤 咲）

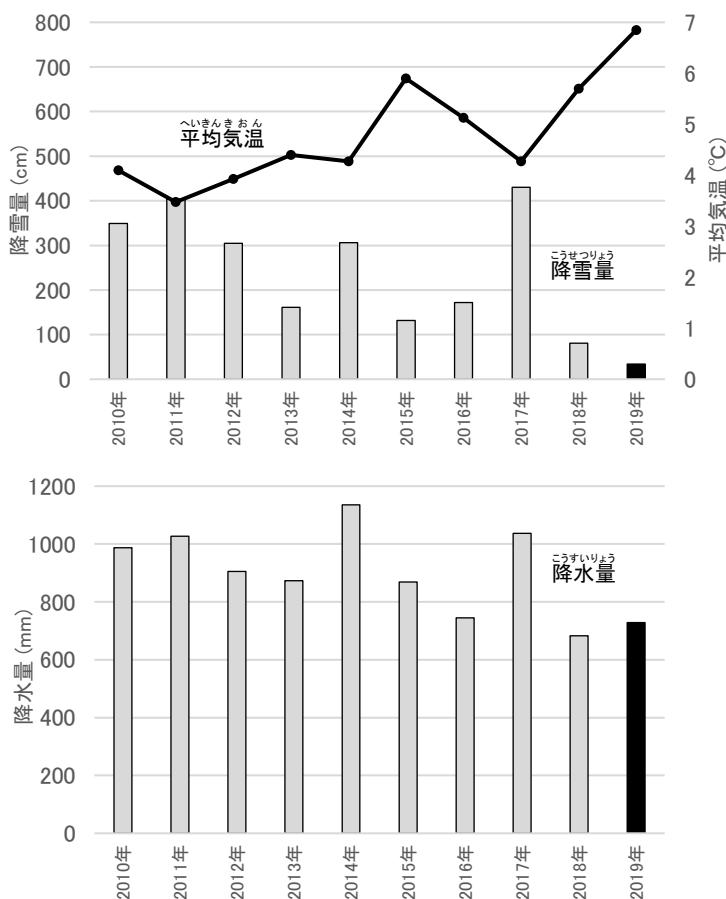


図1 富山市における過去10年間の一冬（12～3月）の降雪量と平均気温（上）、及び降水量（下）  
（気象庁ホームページより）



図2 立山室堂平の積雪調査で撮影した雪の断面（2019年4月22日撮影）

今月のかがくのギモン：立山室堂にある雪の大谷はどうやって除雪するの？  
（答えは当館ホームページを見てください）